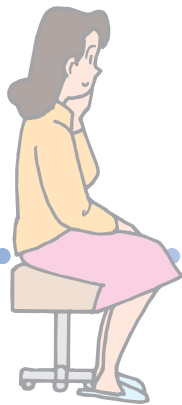


# Q&A 先生教えて!



## 気になるメディカル



### 体のあちこちがかゆくて困っています

回答:皮膚科 部長 五十嵐 敦之

**患者:** 1ヶ月前から、毎日体のあちこちが赤くなり、かゆくて困っています。ぼりぼり掻くとミズ腫れのようなのですが...

**医師:** じんましん 蕁麻疹が考えられます。蕁麻疹はかゆみとともに突然出現し、皮膚が赤く盛り上がってきますが、数時間後にはあとかたもなく消えてしまいます。通常、症状が1ヶ月以上続くものを「慢性蕁麻疹」、1ヶ月以内に出没がみられなくなるものを「急性蕁麻疹」と呼んで区別しています。蕁麻疹は、5人に1人が一生の間に一度はかかるといわれているほど、ありふれた病気です。

**患者:** 原因がわからないのですが、検査はあるのですか？

**医師:** 蕁麻疹の原因を特定するのは実はとても困難です。日常診療の場では10%にも満たないでしょう。まれに内臓の病気に伴って出てくることがありますので、一般的な血液検査で異常がないか調べたり、アレルギー体質の有無を調べる検査をしたりします。

**患者:** どんな治療があるのでしょうか？

**医師:** 抗ヒスタミン薬の内服が主体となります。最近の薬は眠気などの副作用が少なくなっており、飲みやすい小児用の製剤も発売されています。内服はどうしても長期間になりがちですが、安全性についてはまず心配ありません。

**患者:** 日常生活で注意することは？

**医師:** 睡眠を十分にとり、暴飲暴食を避けるといった注意が必要です。からだが暖まると出やすい傾向にありますので、激しい運動や熱いお湯には気をつけたほうがいいでしょう。アルコールは血管を拡張させる作用があり、また香辛料などの刺激物は発汗を促しかゆみを増長させるので、避けた方が無難です。また、肉体的疲労、精神的ストレスも蕁麻疹を悪化させますのでご注意ください。



### インフルエンザの症状と予防法を知りたい

回答:呼吸器科・肺外科 医師 野田 裕道

**患者:** そもそもインフルエンザとは？

**医師:** インフルエンザウイルスによっておこる病気です。現在、ヒトに感染して問題になっているのは、A型(香港型、ソ連型の2種類)とB型のウイルスです。例年、11月末～4月までの寒い時期に流行し、流行のピークは1月中旬～下旬です。2005年～2006年にかけての冬季の流行は、A香港型66%、Aソ連型26%、B型8%という比率で、これは毎年異なります。また人によってはA型、B型の両方に、別々にかかることもあります。

**患者:** どんな症状ですか？ 診断は？

**医師:** いわゆる、普通の「かぜ」とは違います。突然の悪寒、38 を超える高熱で始まり、せき、のどの痛み、鼻汁に加え、頭痛、関節痛、筋肉痛、だるさなど全身の症状が強いことが特徴です。子供ではけいれんや意識がおかしくなる脳症がみられることもあります。診断は、鼻やのどの奥を綿棒でこすって、粘膜にインフルエンザウイルスがいるかを調べる検査を行います。診療所でもできる簡単な検査で、20分ほどで結果が出ます。

**患者:** 予防法を教えてください。

**医師:** こまめな手洗い、うがい、人混みへの外出を控える、外出時のマスク着用、加湿器などで部屋の乾燥を防ぐ、十分な休養と栄養補給などを、特にこの時期には心がけましょう。また、インフルエンザワクチンの接種をお勧めします。ワクチンは毎年、流行を予測して作られますが、この接種によってインフルエンザにかかることはありません。大人では1回の接種で十分です。インフルエンザにかからない、かかっても軽くてすむといった効果が報告されています。特に高齢の方、慢性の肺の病気を持っている方、心臓の悪い方、糖尿病の方、腎臓の機能の悪い方にはお勧めします。

**患者:** かかった時の治療は？

**医師:** 休養、保温、水分補給が基本です。発病して早い時期(48時間以内)であれば、抗ウイルス薬(錠剤と吸入する薬の2種類)が有効です。インフルエンザウイルスには抗生剤は効きませんが、インフルエンザにかかると、肺炎などの細菌感染が起こりやすくなります。このような場合には抗生剤も併用します。以上に留意して、元気にこの時期を乗り切りましょう。